

エコー下穿刺導入後の穿刺に対する意識調査 ～穿刺ストレス軽減への試み～

明厚会大石内科クリニック

○山口 宏文 大塚 克幸 城本 聖矢
清川 栄美 小川 裕二郎 大石 明

目的

長期血液透析患者の増加、導入患者の高齢化、糖尿病性腎症の増加により穿刺が困難な患者が多くなっている。

穿刺を苦痛と感じストレスを抱える透析患者が多数いる。

穿刺トラブルが頻回に起きている患者に対し、エコー下穿刺を導入したことがストレスの軽減に繋がったのか検討した。

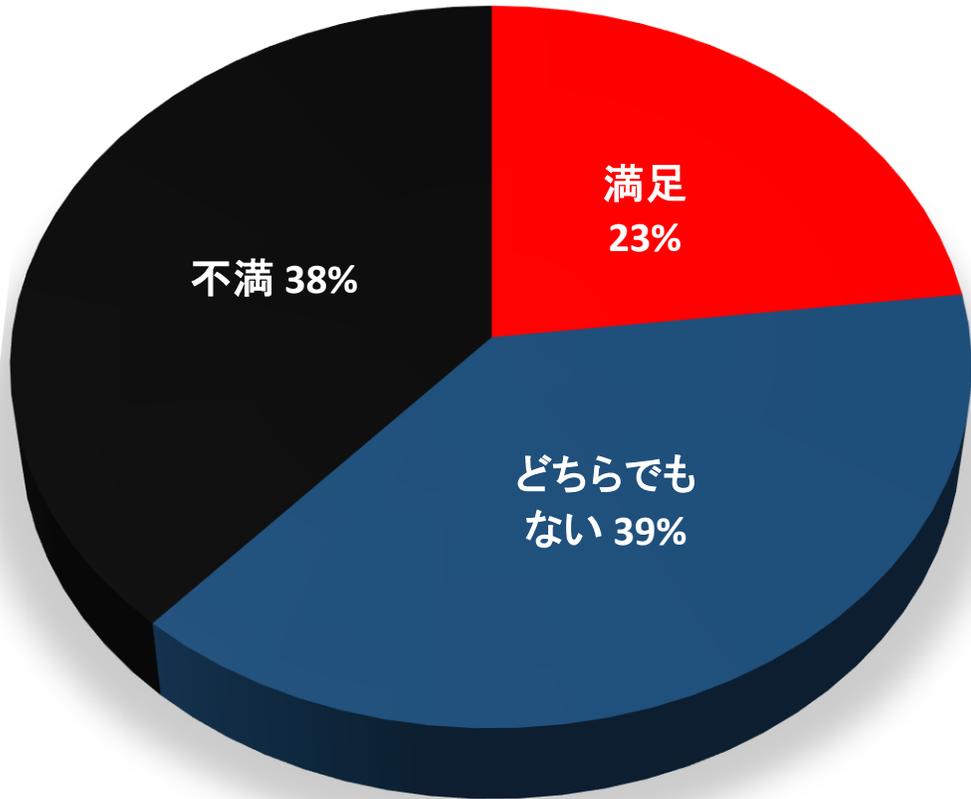
対象

- ・当院外来透析患者の内、穿刺困難である
13名(男性 8名 女性 5名)
- ・平均年齢 60.0±13.1 歳
- ・透析歴 4.6±3.0 年
- ・DM 9名

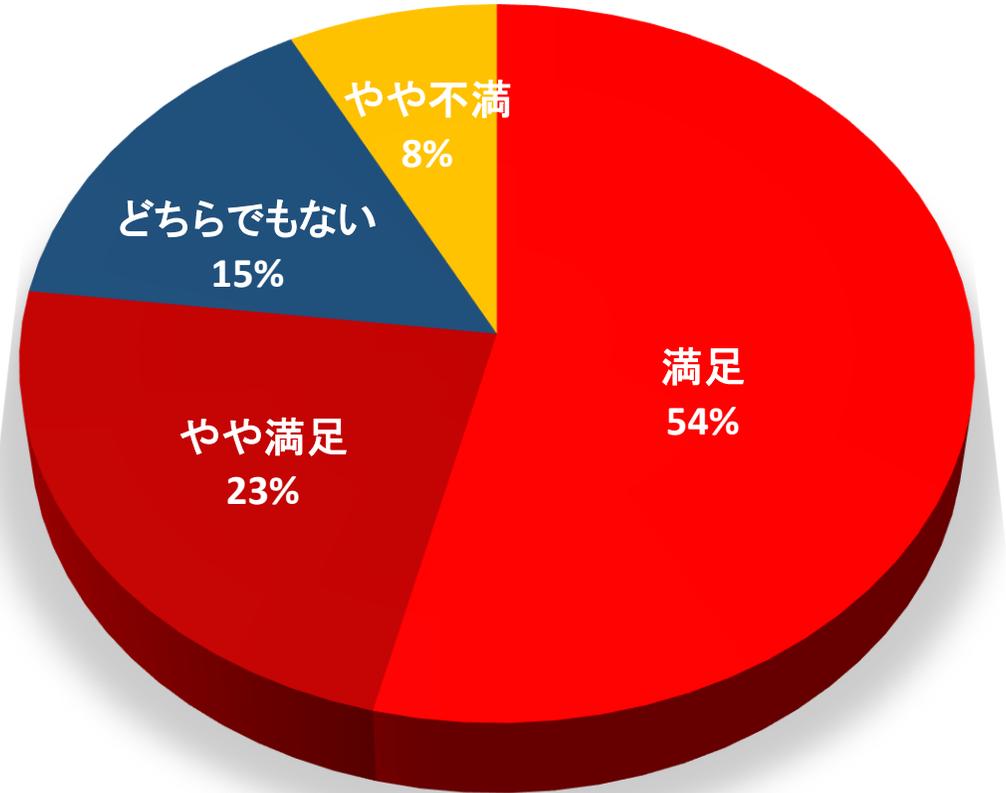
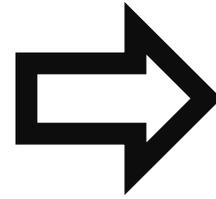
方法

エコー下穿刺導入前後での満足度、医療機器への不安、穿刺に対する苦痛に関してアンケート調査を行った。

穿刺について満足していますか？



エコーを用いない穿刺

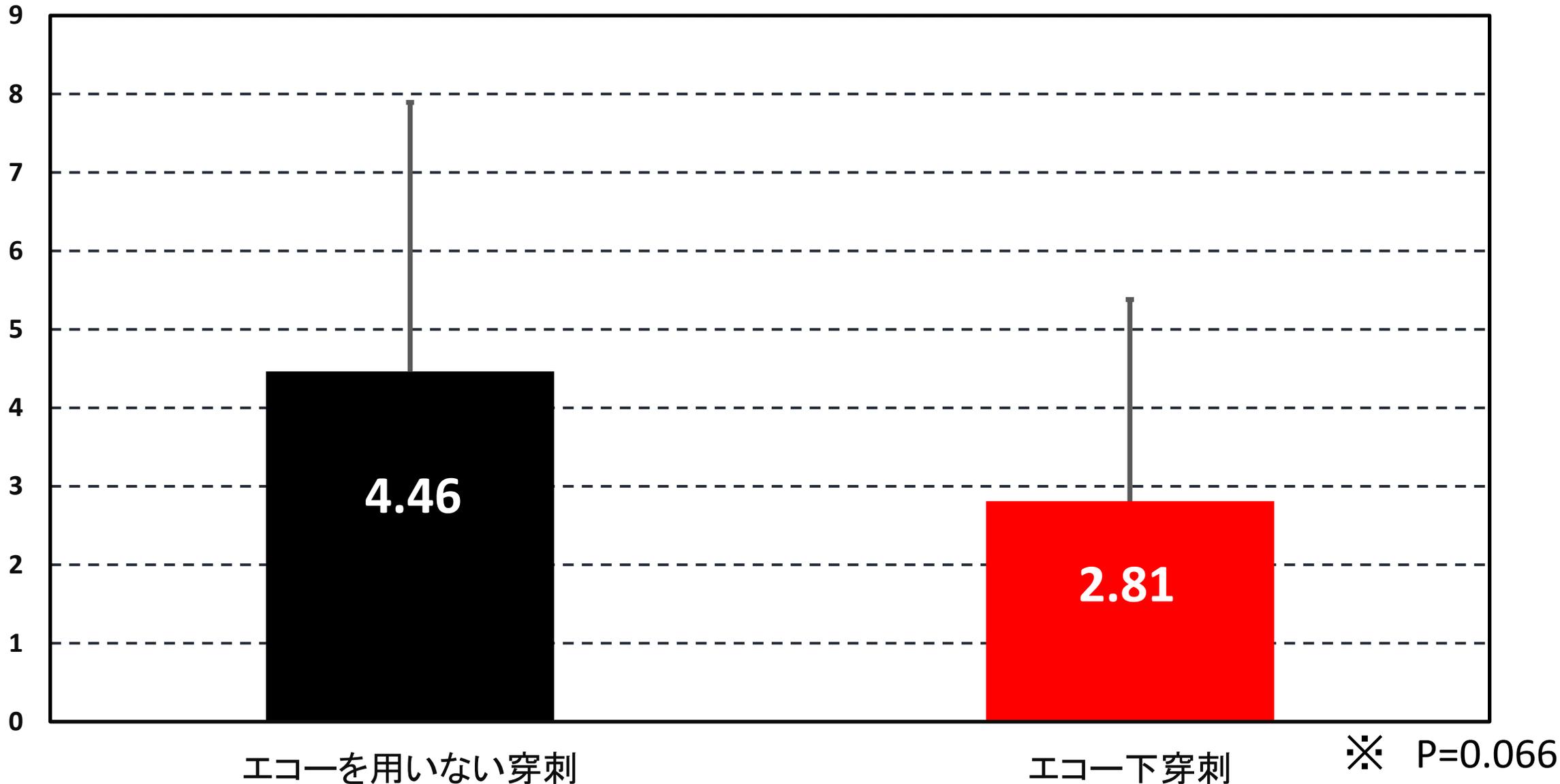


エコー下による穿刺

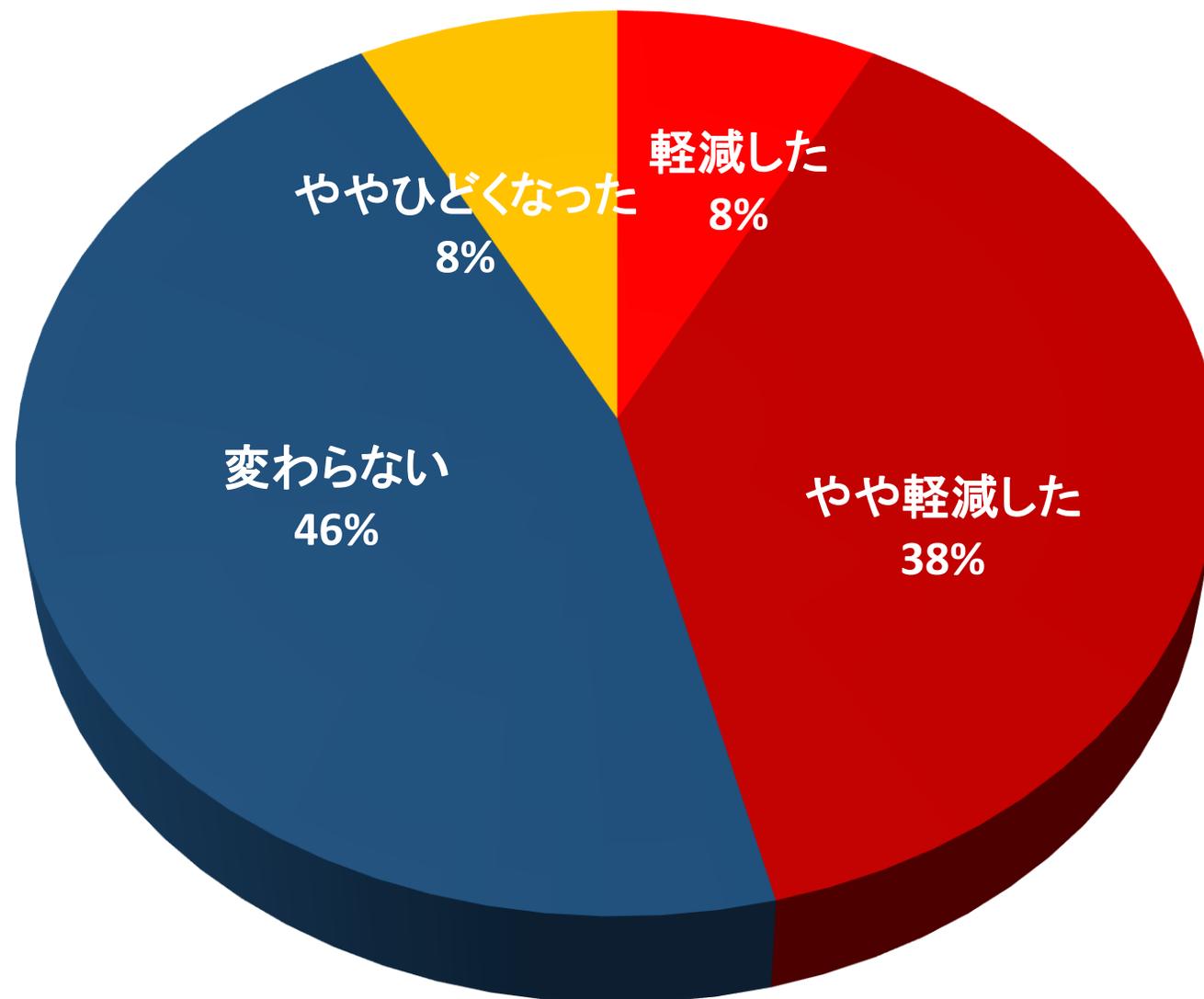
n=13

穿刺に対する苦痛をどの程度感じているか？

※NRS(数値評価スケール)による聞き取り。



エコー下穿刺を始めて透析に来ることに対して不安・ストレスは変化しましたか？



n=13

穿刺の際、エコー機器が入ることが気になりますか？

(%)

100.0

90.0

80.0

70.0

60.0

50.0

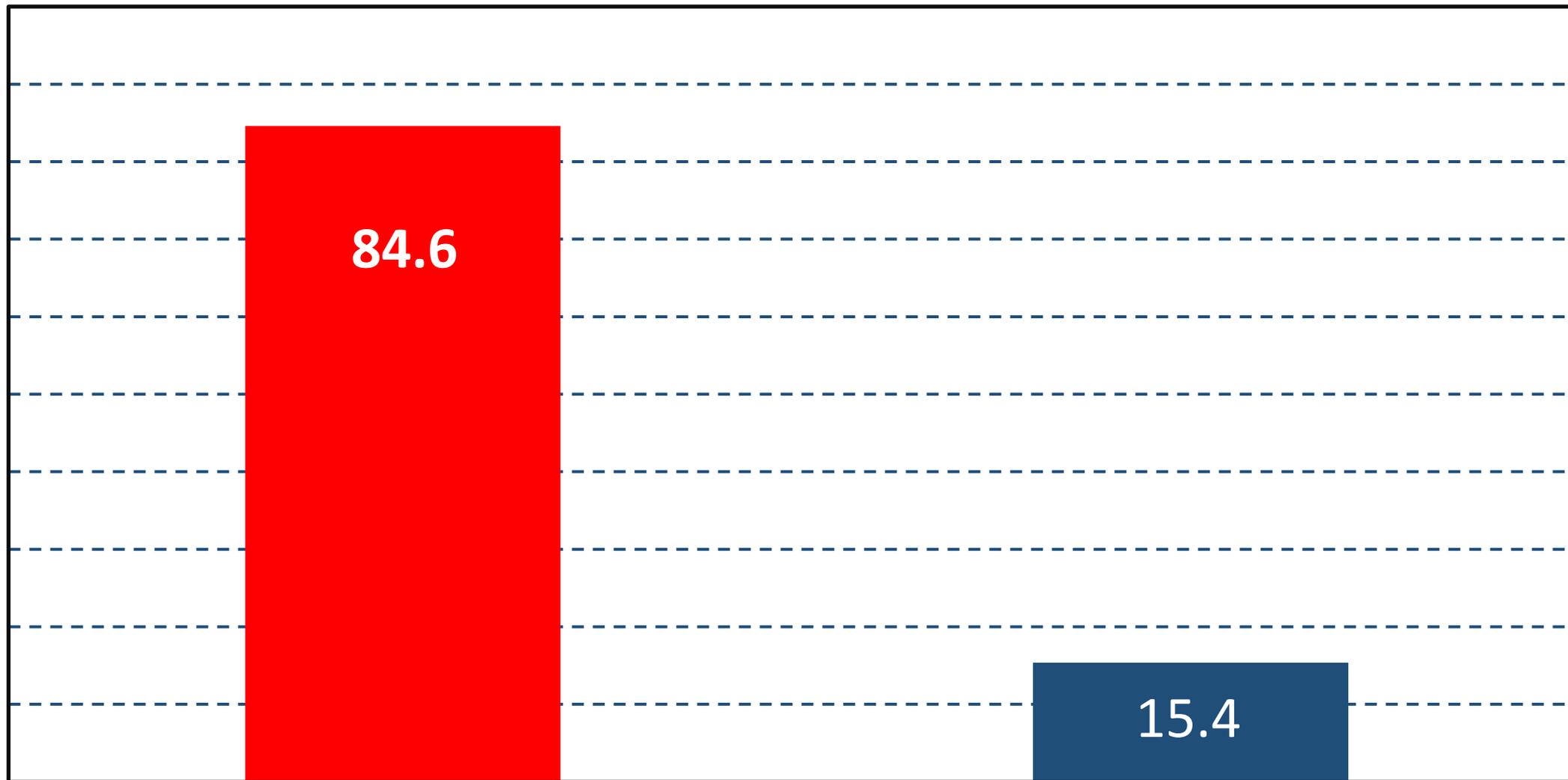
40.0

30.0

20.0

10.0

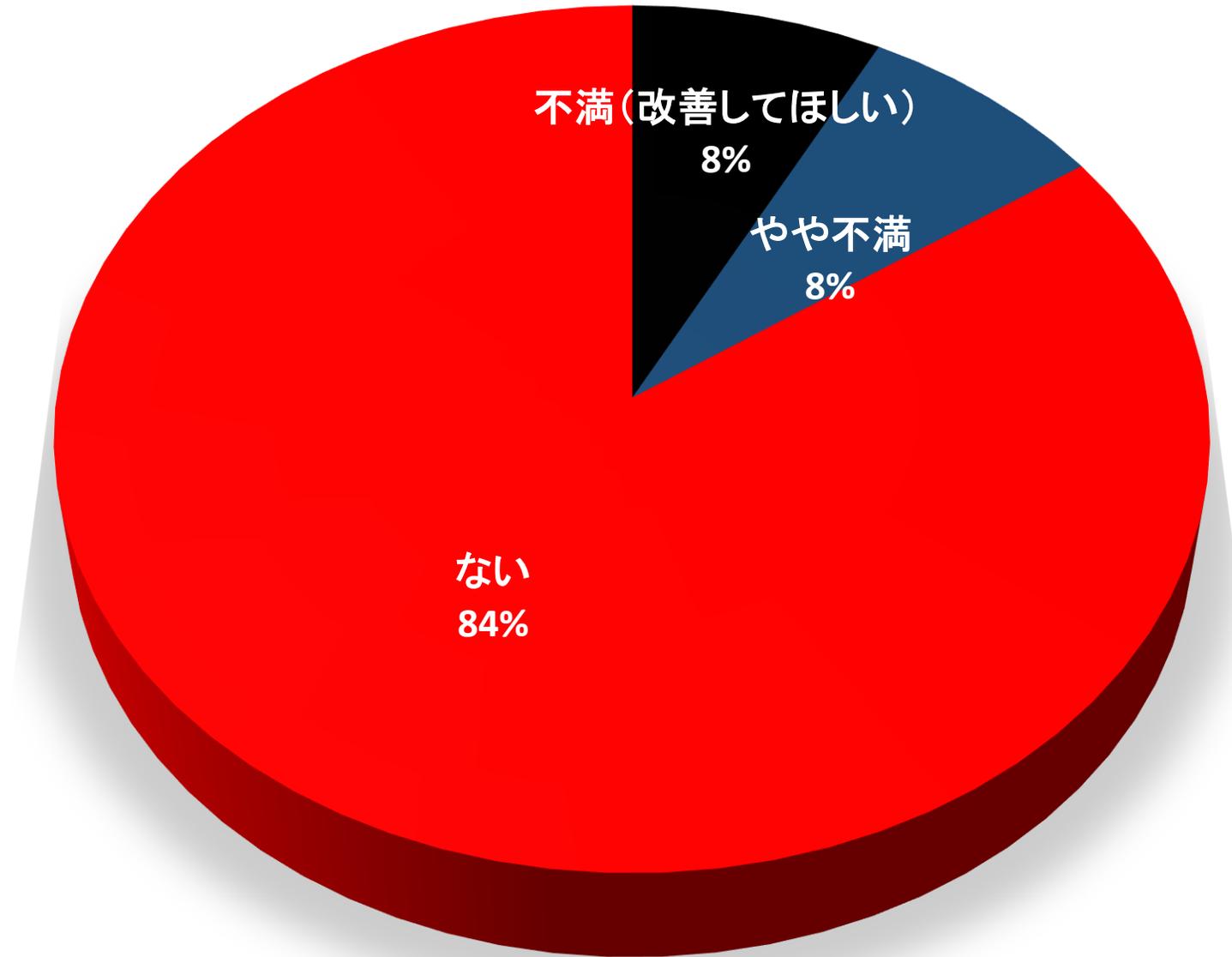
0.0



気にならない

気になる

準備で時間がかかることが不満ではないですか？



n=13

機器を使うことに対する不安・恐怖はありますか？

(%)

100.0

90.0

80.0

70.0

60.0

50.0

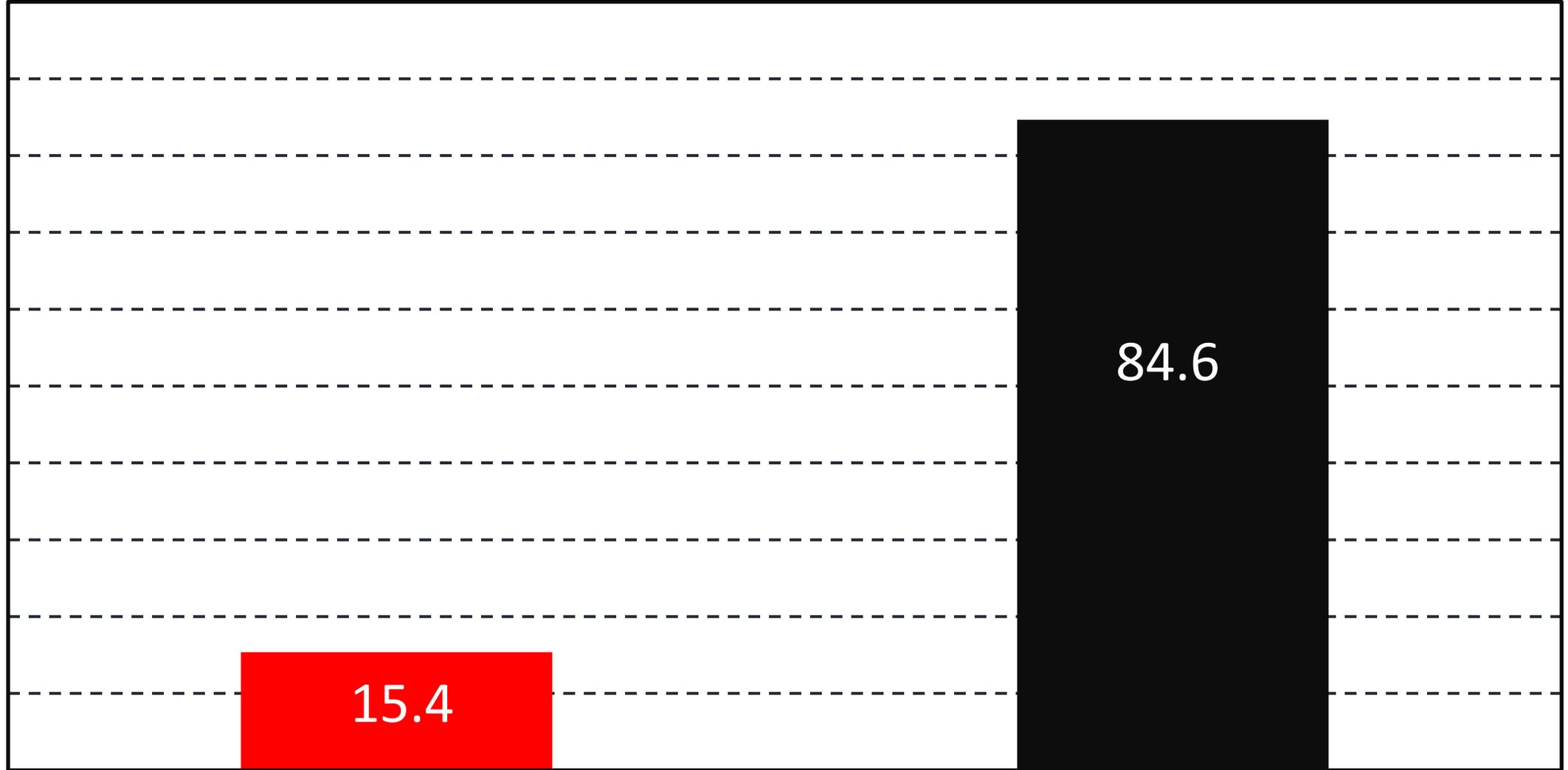
40.0

30.0

20.0

10.0

0.0



ある

ない

考察

- ・穿刺についての満足度はエコーを用いない穿刺では23%(満足のみ)からエコー下穿刺では77%(満足54%、やや満足23%)へ向上した。穿刺時、「エコーの画面を一緒に見られる」との意見あり、盲目的操作ではない安心感が満足度を向上させた一因と思われる。
- ・穿刺に対する苦痛は13名中5名で低下させることができた。相関($P=0.066$)は得られなかったのはエコー下穿刺施行患者数がまだ少なかったためと思われる。
- ・エコー下穿刺を開始して46%(軽減8%、やや軽減38%)で透析へ来ることへのストレス・不安が軽減できた。穿刺満足度と比較し来院へのストレスが低値を示したのは透析を行う上でのストレスは穿刺のみでなく透析自体へのストレスもあるからと考えられる。
- ・少数ではあるが他患者が使用しないエコー機器を使うことへの不安、準備等に時間がかかることへの不満が見られた。

結語

エコー下穿刺を導入したことで再穿刺などの穿刺トラブルを減少させ、患者満足度を向上させることが可能であった。

穿刺は透析を行う上でストレスの要因になるため、トラブルを減少させる目的でエコー下穿刺を導入することは重要と考えられる。

茨城人工透析談話会
COI開示
筆頭発表者：山口 宏文

演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません。